

---

## 近日発売

たくや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

近日発売

### 【Nコード】

N2539Q

### 【作者名】

たくや

### 【あらすじ】

留守番を任されたメイド。  
書斎で地下の隠し部屋に続く扉を発見。  
その奥で見つけたものとは…。

## （前書き）

数年前、電撃掌編王に投稿しようと思って書いた代物です。  
テーマ「ときめき」

キーワード「お留守番」「デビュー」

結局、他を送ったので、こちらはボツ作品ですが。

旦那様からお留守ばんのお役目を仰せつかった時のことでございます。

書斎をせつせとお掃除しておりますと

——やや？

普段は本棚であるはずの場所に、人一人が通れるような穴が、ぽっかりと開いているではございませんか。

こちらのお屋敷に來まして早二年。こんなところに隠し扉があったなんて、まったく気が付きませんでした。

やはり一介のメイド風情にはお教えいただけない事が、旦那様におありなのですね。

メイドなどというお仕事をしておりますと、こういったイベントに遭遇することは稀でございます。見逃すわけには参りません。

それに旦那様からは「隠し扉を見つけても、見て見ぬふりをしなさい」とは仰せつかっておりません。ええ、仰せつかっておりますんとも。ふふふ。

さて、その空間を覗いてみますとそこには階段が。どうやら地下に通じている様子。

もちろん行かねばなりません。

薄暗い階段を一段、また一段と下るごとに緊張が高まってまいります。いったいこの奥に、どんなアドベンチャーが待ち受けているのでしょうか。

まるで映画のヒロインにでもなったような気分。

今日がわたくしの銀幕デビューー。

階段を下りきったところに木製のドア。どうやら鍵はかかっておりません。

扉の向こうはわたくしの知らない世界。

少し怖い気もいたします。

例えばわたくしのクローンが何十体と水槽を泳いでいたらどうしましょう！？

なにをなさっているのですか旦那様！

わたくし困ってしまいます！

メイド服はそんなに用意できませんのに！

手汗をエプロンで拭って、恐る恐るドアノブをひねります。静かに押し開け、覗き込みますと……。

まあ！　なんでしよう、このおどろおどろしい雰囲気は！？

大きなお釜やら爬虫類の干物やら髑髏の燭台やら。まるで悪い魔法使いの隠れ家です！

隠れ家の主は旦那様ですから、旦那様は悪い魔法使いですか！？  
であるならば、正義のメイドたるこのわたくしがお諫めしなくてはなりません！

正義感と好奇心から部屋を観察しておりますと、ふと机の上に置かれたグラスが目に入りました。

グラスには毒々しい緑色の謎の液体が注がれております。

飲みかけのものを置きっぱなしにするなんて、不潔ですね。

鼻を近づけてみますと、あら不思議。見た目はこんなですが、果実のような甘酸っぱい香り。

……　ちよつとおいしそうです。

そういえばお仕事と緊張で喉がカラカラ。

……　少し飲んでみましょうか。

万が一ばれたら「旦那様の秘密を知ってしまいあまりに申し訳なく死んでお詫びしよう」と近くにあった毒っぱいそれで服毒自殺を図ったのですわーん」と泣いてしまいました。

一休さん方式です。

そんなわけで一口。

「キミ！　ここでいったいなにをしているのかね！？」

「んぐっ！？　だ、旦那様！？」

いつの間にか戸口に旦那様のお姿が！

「いかにも吾輩は旦那様」

旦那様は自慢のカイゼル髭を扱きながら威厳たっぷりにお答えくださいました。

「いつお戻りに！？」

「たった今だがそんなことはどうでも良い！ その手に持っている物はなにかね！？」

わたくしの手には謎汁の入ったグラスが。

「これは、その……不味い液体です！」

「不味いつて！？ 飲んだのか！？」

「ああ、しまった！」

早速ばれてしまいました！

「そんなもの良く飲めるな！？ キミはおかしいぞ！」

「はいいいいいっ」

恐縮でございます。

こうなったら最後の手段です！

「お、こらもう飲むな！」

「死んでお詫びを！」

「それは毒じゃない！」

「ではいったいなんなのですか！？」

「なんでもない！」

「答えられないような物なのですね！？」

「そ、それは」

旦那様は一瞬言葉につまり、その後恥ずかしいそうにそっぽを向かれ、おっしゃいます。

「それは惚れ薬なのだよ。まだ試作品で効果は未確認だが」

「惚れ薬？ 飲むと人に惚れてしまうと言っあの？ このドブから浚って来たような液体が？」

「うむ。そのような物を飲んでしまえるキミの神経は称賛に値するな」

大変です！　それが本当なら、この状況では十中八九惚れる相手は旦那様です！　尊敬はいたしますが、正直タイプじゃございません！

ですが時間が経つにつれ、なんだか胸がドキドキ。身体も火照ってまいります。頭はぼおつとして、目がかすみソフトフォーカスがかかったよう。

これが……恋？

「どうだろう？」

わたくしの常ならぬ様子に気付いた旦那様が期待のこもったお顔でお訊ねになります。

「吾輩に惚れたかね？」

「……いいえ」

「しかし今のキミは見るからに恋する乙女のようなが？」

「ええ。確かにそのようです」

「おかしいじゃないか」

「いいえおかしくありません。どうやらわたくし、こちらに惚れてしまったようです」

緑色した魅惑のジュースを、わたくしは高く捧げ持ち、うつとりと眺めるのでございます。

「え、惚れ薬に？」

「はい」

「……あいたたた」

頭を抱える旦那様は放っておいてまた一口。

「ああ、全然美味しくないのに、とっても素敵」

愛があれば、味など関係ないのでございます。

（後書き）

お読みいただきありがとうございます。

これで興味を持たれたら、他作品もちょいと見ていってください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2539q/>

---

近日発売

2011年1月26日10時13分発行